

(72)

氏名(生年月日)	オオ 大 圖 弘 之
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第1319号
学位授与の日付	平成4年11月20日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	IgA腎症におけるI型, III型 collagen の出現に関する臨床病理学的研究
論文審査委員	(主査)教授 二瓶 宏 (副査)教授 小林 楨雄, 内山 竹彦

論 文 内 容 の 要 旨

目的

IgA腎症において、腎組織の糸球体硬化に至る過程でのI型, III型 collagen の関与、さらに臨床経過での予後におよぼす影響を検討した。

対象および方法

腎生検によりIgA腎症と診断された64症例を対象とした。I型, III型 collagen の染色性の違いにより対象を3群に分類し、各群について、腎生検時の臨床病理学的検討と予後について検討した。3群の分類は、糸球体内にI型, III型 collagen の染色を認めないもの、III型 collagen のみ染色されるもの、両者が染色されるものとした。

結果

III型 collagen のみが染色される症例では、尿蛋白の増加および組織学的には高度な癒着を示したが腎機能の低下は認めなかった。I型, III型 collagen が共に染色される症例では、腎組織は10%以上の糸球体硬化および癒着、中等度以上のメサンギウム拡大および間質病変が認められ、硬化病変へ至る過程が存在した。さらにI型, III型 collagen が共に染色される症例では、観察期間中(38.4±22.6カ月)有意なCcrの低下(p<0.05)がみられた。

考察

糸球体障害発症、進展に伴いIII型 collagen が出現し、さらにI型, III型 collagen の出現が、硬化病変の進行に関与することが明らかとなった。

結論

従来の病理学的検索にとどまらず、免疫学的にI型,

III型 collagen 染色性を検討することが硬化病変の進展の予測に有用と考えられる。

論文審査の要旨

腎組織の硬化性病変と細胞外基質との関連について、基礎的な知見は集積されつつあるが、臨床例での研究は未だ少ない。本研究では、IgA腎症の症例について、糸球体が硬化に至る過程でのI型、III型コラーゲンの関与、それらが臨床経過と予後に及ぼす影響を検討し、①III型単独の染色例は尿蛋白量や組織変化が高度でも腎機能は低下しにくい、②IとIII型の同時染色例は組織変化がより高度かつ進行性で腎機能が低下しやすい、との結論を得た。コラーゲンの発現が糸球体障害の発症、進展に大きな係わりを持つこと、腎組織のコラーゲン染色が予後の判断に有用であることを明らかにした点で、臨床上、学術上、価値ある論文である。

主論文公表誌

IgA腎症におけるI型、III型collagenの出現に関する臨床病理学的研究

日本腎臓学会誌 第34巻 第6号

647-656頁(平成3年11月8日発行)

副論文公表誌

- 1) 虚血性急性腎不全、腎と透析 31: 385-389 (1991) 二瓶 宏, 大岡弘之, 樋口千恵子, 佐中 孜
- 2) 合併症への対応・腎症一透析療法の適応と実際一. Medical Practice 6 (5): 721-723 (1989)

二瓶 宏, 大岡弘之

- 3) 透析液総論. 日本臨床 血液浄化療法(上巻) 49: 287-294 (1991) 杉野信博, 大岡弘之, 木全直樹, 仲里 聡, 久保和雄
- 4) 長期透析患者の感染症. 腎と透析 27: 57-63 (1989) 二瓶 宏, 大岡弘之, 島本由紀子
- 5) 透析中のoxgen metaboliteをもつ好中球の増加について. 腎不全 1 (1): 75-80 (1989) 西川 恵, 佐中 孜, 佐藤孝子, 小俣正子, 大岡弘之, 他6名